

Smile Please!

藤原 紀香

「安全」示す路傍の白い石



アフガニスタンでは地雷による被害が後を絶ちません。私が現地を訪れた2002年7月も連日、地雷で手足を奪われた子どもたちが病院に運びこまれていました。なぜ子どもたちが地雷の被害にあうのか？多くの子どもたちは学校に行けず、地雷教育を受けていないので、自分で自分の命を守ることができません。教育の大切さを改めて感じました。

アフガンの首都、カブールの北にあるシヨマリ平原。紛争の前線となったこの地を通過して13時間、悪路に揺られパーミヤンに向かうとき、赤と白の印がついた石が道の両側に延々と置かれていることに気づきました。

「あれは何？」

アフガン人のドライバーに尋ねると、「赤く塗られた方向が地雷原。白い方は安全地帯。つまり地雷の標識みたいなもんさ。赤の向こうには多くの地雷が埋まっているんだ」。

背筋の凍る思いでした。私たちを乗せた車が走っているのは対向車がやっとすれ違えるほど狭い一本道。対向車がきても本当に大丈夫か？ドライバーがうっかり道をそれてしまったら...と、ずっと生きた心地がしませんでした。

道中、私たちが通っている道のすぐ横あたりに、真っ黒に焼け焦げた車らしき残骸がありました。ドライバーが指をさし、「あれは、対向車が来たとき、ハンドルを切りすぎ、少し道を外れて対戦車地雷を踏んでしまった小型バスだよ。乗っていた家族8人は全員死んでしまった」と。

カブールからパーミヤンまで凸凹道250キロ、13時間の旅はまさに心身ともに死ぬ思いでした。

アフガンの人々はいまも地雷原の中で生活しており、普段使う生活道具も、白い石で囲まれた幅2メートルしかなく、常に危険と隣り合わせです。

地雷原に囲まれた土地で遊ぶこともできない少年。そのうつろな瞳は何を映すのか... (藤原紀香撮影)

ふじわら・のりか 女優。兵庫県出身。ドラマ、CM、司会などで活躍。主な作品は「スタアの恋」「大奥～華の乱～」「愛と青春の宝塚」(フジテレビ)、最近では「ツレがうつになりまして」(NHK)では鬱病の夫を支える妻を好演。過酷な環境の中で働く産科医をテーマにした現在放送中の連続ドラマ「ギネ産婦人科の女たち」(日本テレビ系、水曜午後10時)に主演。

2002年には日韓国民交流年で親善大使を務める。戦乱で傷ついたアフガニスタンをとらえた写真展を04年

6月にニューヨーク国連で開催、その際アナン元事務総長に面会し、スピーチも。以降、国際活動を本格化。各地でチャリティー写真展「Smile Please!」も開催中。現在は赤十字広報特使として、各国を訪問。今の心境と美の秘訣を惜しみなくつづった「紀香パティ2!リ・アル」を12月10日発売予定。来年1月7日からは、自身2度目となるブロードウェイミュージカル「キャバレー」(東京・有楽町の日生劇場、1月29日まで)に主演。チケットの問い合わせは☎03・3490・4949。

